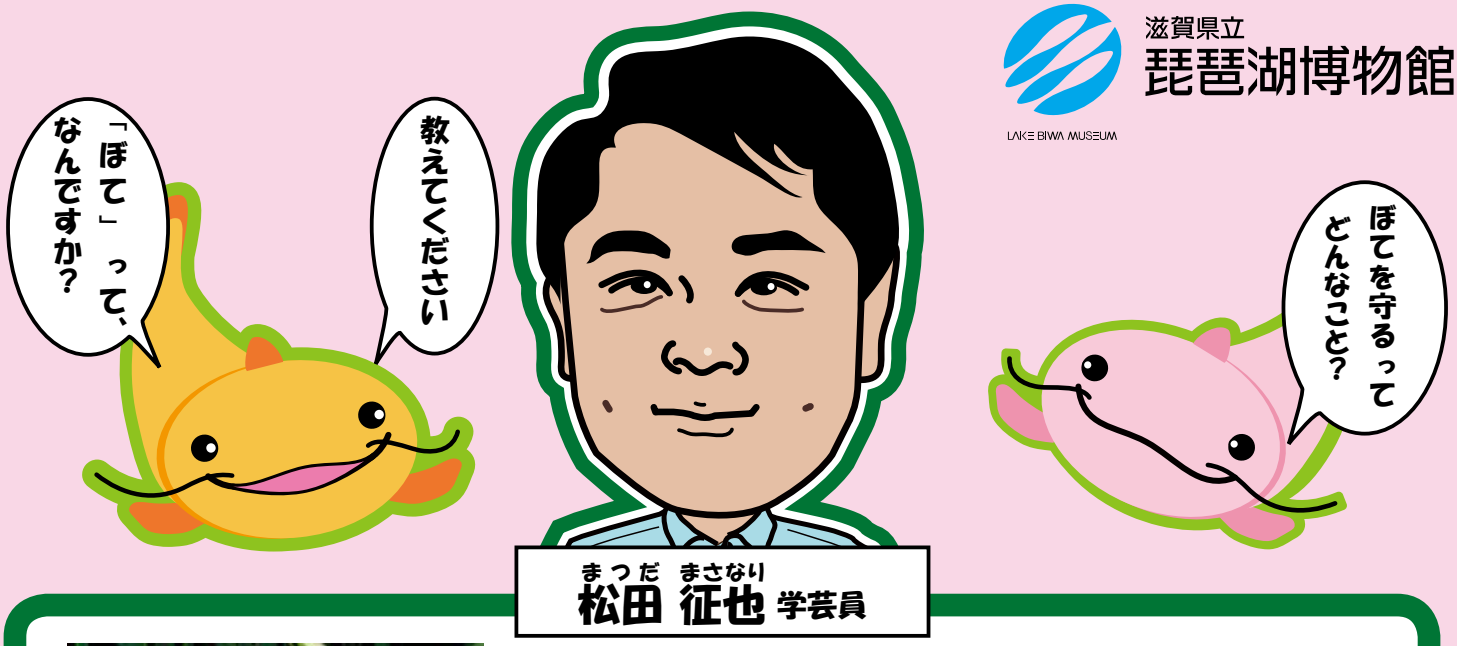
うみっこ通信

滋賀県立
琵琶湖博物館
LAKE BIWA MUSEUM



松田（まつだ） 征也（まさなり） 学芸員

イチモンジタナゴ

少なくなってしまった魚たち

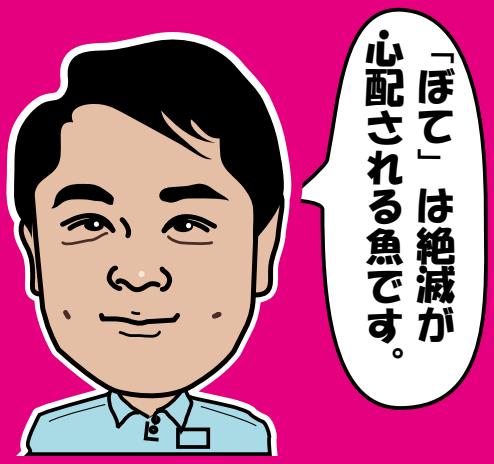
2016.10
No.16

滋賀県には、「ぼて」とか「ぼてじゃこ」と呼ばれている魚がいます。「ぼて」というのは滋賀県での呼び名で、分類学的にはコイ科タナゴ亜科に属す魚のことです。滋賀県には外来種を含め 6 種が生息しています。大きさは 4cm ～ 12cm ほどの小魚ですが、卵を産む場所が独特で、生きている二枚貝の体内に卵を産み付けます。30 年ほど前には、湖の周りでごく普通にみられた魚ですが、最近では生息数が減ってしまい、絶滅（ぜつめつ）が心配されています。松田学芸員は、そんな少なくなっている「ぼて」を増やすための研究を 30 年以上つづけています。

また、平成 28 年 9 月 17 日から開催の第 24 回企画展示「開館 20 周年記念　びわ博カルタ 見る知る楽しむ新発見」もご紹介します。

目次

1　今回の特集
2　ぼてってどんな魚？
3　ぼてはなぜ減っているの？守るための取組は？
4　うみっこトピックス
企画展示「びわ博カルタ」で遊ぼう！自分のカルタを作ろう！
第 24 回企画展示「開館 20 周年記念　びわ博カルタ　見る知る楽しむ新発見」



【研究紹介】

ぼてって どんな魚？

【写真１】シロヒレタビラ

【写真２】タナゴの佃煮

【写真３】貝の中で生まれたイチモンジタナゴ

【写真４】イタセンパラ

滋賀県にいる「ぼて」は？

滋賀県にいるのは、ヤリタナゴ、アブラボテ、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、カネヒラそして外来種のタイリクバラタナゴです。かつては、イタセンパラとニッポンバラタナゴも分布していましたが、いまでは絶滅したと考えられています。

食べられるの？

魚屋さんなどでは売られていませんが、昔は「おかず」としてとられ、食卓に上っていました。苦みがあることから、滋賀県ではあまり好まれてはいませんが、関東では「ぼて」の仲間は、佃煮（つくだに）にして販売されています。「ぼて」の仲間は、英名では bitterling（bitter：苦い）と呼ばれています。

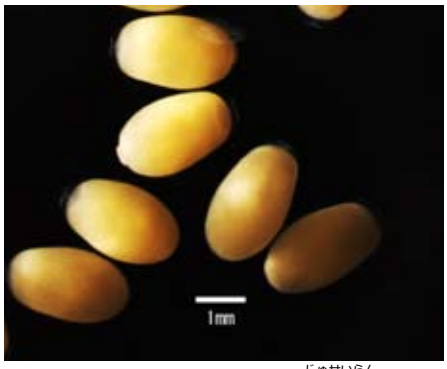
どこに卵を産むの？

「ぼて」は生きているイシガイ科の二枚貝に卵を産み付けます。二枚貝には水を吸い込む入水管（にゅうすいかん）と、はき出すための出水管（しゅっすいかん）とがあります。「ぼて」のメスは、二枚貝の出水管の中に卵を産むための管を差し込み、産卵します。その直後に「ぼて」のオスが入水管のそばで精子を放出し、二枚貝の体内で受精すると考えられています。産み込まれた卵は二枚貝のエラの中でふ化し、ある程度育って稚魚になると二枚貝の中から出てきます。

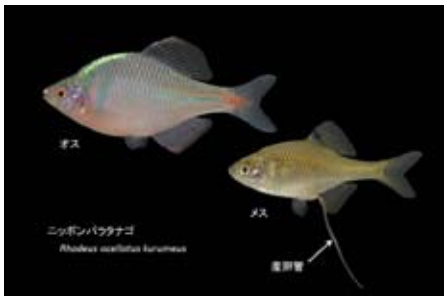
天然記念物（てんねんきねんぶつ）の「ぼて」っているの？

「ぼて」の仲間には、絶滅が心配されるほど生息数が少なくなっている種類がいます。そうした種類を守るための文化財保護法（ぶんかざいほごほう）という法律で、天然記念物（てんねんきねんぶつ）に指定されています。「ぼて」の仲間で天然記念物に指定されている種類は、イタセンパラとミヤコタナゴの２種類で、1974 年（昭和 49 年）に指定されています。この他、種（しゅ）の保存法（ほぞんほう）という法律では、イタセンパラ、ミヤコタナゴ、スイゲンゼニタナゴの３種類が保護されています。また、滋賀県の条例では、イチモンジタナゴを許可無く捕まえることを禁止しています。

ぼてはなぜ減っているの？守るための取組は？



【写真５】シロヒレタビラの受精卵（じゅせいらん）



【写真６】ニッポンバラタナゴのオスとメス

【写真７】タイリクバラタナゴ

【写真８】イチモンジタナゴを育てている池（オムロン野洲事業所）

「ぼて」の卵はどんな形？

「ぼて」の卵は二枚貝の体の中に産み込まれるため、普段は目にすることができませんが、人工授精（じんこうじゅせい）をして観察してみると、種類ごとに独特の形をしています。バラタナゴの仲間は電球のような形をしていますし、シロヒレタビラはラグビーボールのような形をしています。また、イチモンジタナゴは細長い形をしています。

オスとメスは区別できるの？

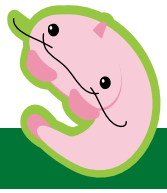
「ぼて」のオスとメスの成魚は、春から夏にかけての卵を産む季節になると簡単に見分けることができます。この季節に、オスの体には種類ごとに青やピンクなどの美しい色（婚姻色（こんいんしょく））が現れるのにたいして、メスには現れないからです。大人になったメスには、肛門のあたりから卵を産み付ける際に使われる細長い管（産卵管（さんらんかん））が伸びてくることでも区別できます。

なぜ減っているの？

「ぼて」が減っている理由にはいくつかあります。産卵のために必要な二枚貝が、工事や埋め立てなどでいなくなると、やがて「ぼて」もいなくなります。また、魚を食べるオオクチバスなどの外来種が侵入して、食べられてしまったことも減少の理由になったと考えられます。この他、ニッポンバラタナゴでは、近縁（きんえん）種（しゅ）で外来種のタイリクバラタナゴが侵入し、雑種が増えたことも減少した理由の一つです。

「ぼて」を守るための取り組みは？

本来はもといた場所で守るのが良いのですが、そこにはまだ二枚貝が少なかったり、オオクチバスがいたりします。そのため博物館では、市民グループや企業、全国の動物園・水族館と協力して、人がきちんと管理できる場所で守る取り組みを進めています。こうした場所で守っている「ぼて」を、将来的に野生にもどすための研究も行っています。



うみっこトピックス

専門学芸員　桝永 一宏

企画展示「びわ博カルタ」で遊ぼう！自分のカルタを作ろう！
第 24 回企画展示「開館 20 周年記念　びわ博カルタ　見る知る楽しむ新発見」

企画展示室の様子

今年の企画展示は、琵琶湖博物館から発見してきたことをテーマとした「びわ博カルタ」です。館長やすべての学芸員、資料整理員など、博物館に関わる人や団体がみんなで展示しています。

私のカルタは「アシナガバエ　まだまだ見つかる新種がね」です。私が研究しているアシナガバエはまだよく調べられていません。世界から 7,000 種ほど見つかっていますが、この倍以上はいるといわれています。今までに私は 25 カ国へ調査にいきましたが、今回は南アフリカで見つけた 2 種の新種のアシナガバエの標本を展示します。現在このハエの論文を書いているところなので、まだこのハエには名前がありません。

展示では、カルタ型パネルによる説明や研究に使う道具、調査や資料整理の方法を紹介したビデオなど、普段見ることの出来ない博物館の研究の様子を楽しく知ることができます。

展示室では大型の「びわ博カルタ」ができる 15 畳(じょう)のスペースや自分で考えたカルタを作るコーナーもあります。美しい日本のカルタや世界のカードゲームもたくさん紹介しています。さらに、「宮田コレクション」という、宮田研究協力員が集めた 120 箱の昆虫標本も壁一面に展示しています。ぜひ、楽しい企画展示に来てくださいね。

うみっこ通信■第 16 号　発行日■平成 28 年 (2016 年) 10 月 1 日　発行所■滋賀県立琵琶湖博物館 〒 525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 番地
TEL：077-568-4811(代) FAX：077-568-4850 HP アドレス：http://www.lbm.go.jp/
企画・編集■大久保実香／大塚泰介／北井 剛／里口保文／戸田 孝／林 竜馬　イラスト・デザイン■ 谷川真紀